

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年12月24日

【評価実施概要】

事業所番号	0174300467		
法人名	医療法人社団 信診連		
事業所名	グループホーム あったか家		
所在地	北海道川上郡弟子屈町鈴蘭1丁目8番1号 (電話) 01548-2-8121		
評価機関名	タンジェント株式会社		
所在地	北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1-6 旭川リサーチセンター内		
訪問調査日	平成21年12月15日	評価確定日	平成21年12月25日

【情報提供票より】(平成21年10月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成)16年10月11日		
ユニット数	1ユニット	利用定員数計	9人
職員数	11人	常勤	9人, 非常勤 2人, 常勤換算 5.8人

(2) 建物概要

建物構造	木造	造り
	2階建ての	~ 1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	24,000円	その他の経費(月額)	21,000~24,000円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無(入居一時金含む)	有(円)	有りの場合償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	300円	昼食	350円
	夕食	450円	おやつ	100円
	または1日当たり		1,200円	

(4) 利用者の概要(10月1日現在)

利用者人数	9名	男性	1名	女性	8名
要介護1	0名	要介護2	2名		
要介護3	3名	要介護4	1名		
要介護5	3名	要支援2			
年齢	平均 87.4歳	最低	81歳	最高	95歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	弟子屈クリニック / JA摩周厚生病院 / 富本歯科医院
---------	------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

このホームは民家を改装し認知症の方には良いとされるピンク色に塗られた建物になっており、居間には花や観葉植物、壁には絵画や町の文化祭に展示した利用者の習字や貼り絵、水彩画などの作品が掲示され家庭的な雰囲気になっています。近年、利用者のADLの状態が低下してきている中で、買い物やドライブ、花見等の行事が行えるように少人数や個別に対応するなどして継続出来るように支援しています。また、医療面も充実しており、法人の院長による毎日の健康チェックや看護師による週1回の医療相談、作業療法士による隔週のリハビリ体操など法人全体の連携で健康管理に努めています。「安心・安全な医療と介護の地域づくり」を法人全体で目指しているホームです。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 前回の外部評価では、運営推進会議の定期的な開催でしたが、今年度は2カ月に1度、定期的実施されており改善されています。また、色々な意見をホームの運営に反映されるように推進委員を増やすことも検討されています。
	今回の自己評価に対する取組み状況(関連項目:外部4) 自己評価は、職員の研修機会と捉えて実施し、全職員で話し合い管理者がまとめて作成しています。また、外部評価は改善点を全職員で話し合い評価を活かして具体的な改善に取り組んでいます。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取組み(関連項目:外部4,5,6) 運営推進会議は2カ月に1度定期的実施されています。主な主題についてはホーム行事の「ふれあい祭り」の開催について 年間の事業・行事の活動報告 消防設備、防火管理について 家族交流会 ターミナルケアについて
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8) 利用者家族連絡ノートを作成し、利用者の様子や伝えたい事を常時報告し、定期的に「あったか家通信」やケアプラン、領収書と金銭出納帳のコピーを同封し発送しています。急な連絡や利用者にて体調の変化があれば随時、電話報告し、面会時には、家族の意見を聞き、相談しやすい雰囲気作りを心掛けており、時間が許す限り、家族と面談する機会を作っています。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 町内会活動や催しには、出来る限り参加しており、町主催の敬老会・文化祭への作品の展示・催し物等にも積極的に参加しています。幼稚園児の来訪や中高生の修学体験の実習、行事の際には高校生のボランティア部の受け入れなども行われています。また、「あったか家通信」を公共機関や商店などに配布し、ホームを理解して貰う取組みも行っています。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.理念に基づく運営					
1.理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者が近隣の方々とのふれあいを目指し、住み慣れた地域の中で暮らし続けるられるように「ご近所や子供たちと家族のようにふれあい」を理念として作り上げている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員は理念について会議の際に唱和し、内容も理解するように取り組んでいる。また、ミーティング等においてお互い意見交換し共有している。		
2.地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、利用者が回覧板を届けたり、町内清掃も一部出来る範囲で行っており、町主催の敬老会・文化祭への作品の展示・催し物等には積極的に参加している。また、幼稚園児の来訪や中高生の修学体験の実習、行事の際には高校生のボランティア部の受け入れなども行われている。		季節ごとに発行している「あったか家通信」を町内、約40ヶ所の公共機関や商店などに配布し、ホームを理解して貰う取り組みを行っている。
3.理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は、職員の研修機会と捉えて実施し、全職員で話し合い管理者がまとめて作成している。また、外部評価は改善点を全職員で話し合い評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議については2カ月に1度定期的開催されている。メンバーは、利用者家族、町の職員、地区区長、民生委員、ボランティアセンター職員、認知症の人を支える会の方、管理者・職員で構成されホームの状況や行事の取り組みについて話し合われている。		
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	普段から町の担当者とは現状報告やサービスを行う上での相談ごとについて、出来るだけ直接足を運び情報や不明な点を確認している。また、ホームの職員も町開催の講習会等に積極的に参加し、共にサービスの質の向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者家族連絡ノートを作成し、利用者の様子や伝えたい事を常時報告している。また、定期的に「あったか家通信」やケアプラン、領収書と金銭出納帳のコピーを同封し発送している。急な連絡や利用者にて体調の変化があれば随時、電話報告も行っている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用の際には、町や道などの公的な機関の相談窓口を重要事項説明書に記載しており、口頭にて説明もしている。面会時には、家族の意見を聞き、相談しやすい雰囲気作りを心掛けており、時間が許す限り、家族と面談する機会を作っている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動や離職がある場合は新任職員が馴染むまで教育・指導の十分な期間を作り利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。また、利用者が馴染みの職員による支援を受けられるように、利用者の状態を把握し、必要な場合に対応出来る体制作りにも努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画を立て、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内での研修会や勉強会を実施しており、町主催の勉強会、グループホーム協議会の研修会に積極的に参加し研修を受ける機会を設けている。また、外部への研修会に参加した職員は参加できなかった職員のために、研修内容の報告会も行っている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会の勉強会や交換研修等で同業者と交流する機会を持ち、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。また、今後は地域の事業者との交流を深めたいと考えている。		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	事前に本人・家族宅を必要なだけ訪問し納得を得るまで説明し、数日間のお試し期間を設けたり、可能であればホーム見学により雰囲気を感じて貰いながら、徐々に利用者と馴染みの関係を作っていく事を心掛けている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	普段の生活の中で、昔なつかしい歌やことわざなど多くの事を学ぶ機会があり、一緒に行う調理では、野菜の切り方や味付けを教えて頂いたり、畑での作業では、土づくりや肥料のやり方・野菜の手入れなどを教わりながらその中で喜怒哀楽を共にし、支えあう関係を築いている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1.一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	利用者本位の生活が過ごせるように、家族や本人からの意向や希望を聞き、センター方式を使って把握している。また、日常の会話や表情の中からも本人の思いを把握するよう努め全職員で情報を共有している。		
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	介護支援専門員の適切な監理のもとに、センター方式で本人の希望や意向を把握し、介護計画に反映させている。また、具体的に事故予防計画とケース担当による個別援助計画にて随時カンファレンスを開催し職員間で検討し家族の意見や必要な関係者と話し合い介護計画を作成している。		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	介護支援専門員の適切な監理のもとに、介護計画書に記載している個別の期間を目安に計画的に見直しが行われている。また、利用者の状態変化に応じて期間終了前であっても現状に即した介護計画の見直しが行われている。		
3.多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	ご家族の希望に応じて、歯科医への通院の支援や買い物や散歩などの支援を行っており、理美容院への訪問、気晴らしのドライブなど利用者ご本人、ご家族から要望があれば、都度検討して可能な限り実現に向けて取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	利用者、家族の希望や要望に応じて状態変化などについても適切な医療が受けられるよう支援されている。また、毎日、母体法人の院長の往診や毎週看護師の訪問があり、関係を密にし、気軽に相談できる関係を築いている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	母体法人の医療機関と連携して利用者・家族とも早い段階的から話し合いをしながら慎重に対応するよう全職員で方針を共有している。ターミナルケアについての本人・家族の意向を入居時に書面にて確認し、重度化した際には、頻繁に医師や看護師が来訪出来るような体制になっている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は守秘義務を遵守する事に努め、記録の扱いには、十分に注意している。また、利用者の尊厳を守る事を理念に掲げており、その人らしさを大切にして、プライバシーを損ねない言葉かけや対応を実践している。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	センター方式で利用者一人ひとりの気持ちを把握し共有されている。また、利用者の希望や思いを尊重し、買い物や食事の準備、畑作業の役割への支援、絵を描くなどの趣味への支援、入浴や食事の時間や自室での食事など本人の希望やペースに沿って支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や後片付けなどは、利用者の状態や希望に沿って役割分担して行われている。出前や弁当持参での観光地での食事、そば打ち職人による食事会など食事を楽しんで貰えるように支援している。また、一人ひとりの体調の変化に合わせた量やメニューの工夫もなされている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	最低週3回を目安に本人の意向を確認しながら無理強いしないように心掛けている。入浴時間は希望に沿って変更の対応にも努めている。毎週、利用者家族からのご厚意で温泉を運んでいただいております、利用者も喜んで入浴できている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	本人の生活歴や日常の様子を踏まえ、食事の準備、後片付け、畑作業の役割事や絵を描くなどの趣味活動にもさりげなく職員が手助けしながら自由に楽しめるよう支援に努めている。また、買い物の支援もされている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	出来るだけで外に出る機会を設け、砂湯公園・硫黄山・摩周湖・屈斜路湖など地域の観光地へのドライブに出かけられるように努めている。また、散歩・日光浴・買い物・畑作業などを自由に楽しめるよう支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	管理者及び職員は玄関に鍵をかけることの弊害を理解して、夜間の防犯以外は鍵をかけないケアに取り組んでいる。また、職員は利用者の状況・行動を把握して安全に暮らせる支援に取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防火管理者を設置して、火災等の緊急時対応マニュアルを作成し、年2回、消防署員立会いのもと利用者とともに避難訓練を実施している。今後は運営推進会議を通じて協力が得られるように働きかけを行い、地域との連携が図られるように検討している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日常の記録・健康管理表に水分摂取量を記載しており職員は状況を把握し支援している。また、法人の知識を有する看護師の指導を受けカロリー計算された献立と食事制限のある利用者は医師から指示を受け適切な栄養・水分量の確保に努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間には花や観葉植物、壁には絵画や町の文化祭に展示した利用者の習字や貼り絵、水彩画などの作品が掲示され家庭的な雰囲気になっている。また、座敷のスペースもあり、一人で休憩できる場所も確保され、居心地よく暮らせるように努めている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、使い慣れた椅子やテーブルなどの家具や家族の写真、本人の趣味の作品などが飾られている。また、自宅で一緒に過ごされた猫を自室で飼われている方もおり、自宅の延長につながるよう居心地が良くなるように工夫している。		

は、重点項目。

WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。